

健康だより

2013
Vol.36
Mar.



ダニが媒介する新しい病気 重症熱性血小板減少症候群 SFTS

※詳細は、厚生労働省HP
(<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200002u1pm.html>) より

最近になってその存在が知られるようになった、ダニ媒介性の新しい感染症「重症熱性血小板減少症候群 (Severe fever with thrombocytopenia syndrome: SFTS)」の患者が日本国内でも確認されました。現時点で分かっている情報をまとめ、予防について考えてみたいと思います。

| | | |
|------|---|---|
| 病原体 | SFTSウイルス(ブニヤウイルス科フレボウイルス属) |  |
| 感染経路 | ・フタゲチマダニ等のマダニによる咬傷 ・感染患者の血液・体液との接触感染も報告されている | |
| 潜伏期間 | 6日～2週間 | |
| 症状 | 原因不明の発熱、倦怠感、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)が中心。時に頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状(紫斑、下血) | |
| 検査所見 | 血小板減少(10万/mm ³ 未満)、白血球減少、血清電解質異常(低Na血症、低Ca血症)、血清酵素異常(AST,ALT,LDH,CK上昇)、尿検査異常(蛋白尿、血尿)など | |
| 致死率 | 10%以上 | |
| 治療 | 特異的な治療法はなく、対症療法が主体 |  SFTSが疑われる患者がいた場合は、最寄りの保健所に連絡を! |
| 予防 | 野外でダニに咬まれないようにする。感染者の血液、体液、排泄物との直接接触を避ける。ワクチンはない。 | |

以前より、日本紅斑熱、Q熱、ライム病など多くの感染症がマダニによって媒介されることが知られています。また、マダニではありませんが、ダニの一種であるツツガムシによって媒介されるつつがむし病などもあります。



まずは、敵を知ることから！マダニって、どんな虫？

| | | |
|----|---|---|
| 形態 | 一般に、大きさは1.5-3mm。吸血すると5-20mmになる。体色は灰色、黄褐色、黒褐色など。 | |
| 分布 | 日本では全国に分布。 | |
| 被害 | 人間に取り付くと、わきの下や腹部など、比較的皮膚の柔らかな部分に両刃ノコギリ状の口器を刺し込み、そのまま離れずに数週間の吸血を続ける。一度取り付かれてしまったら皮膚から離すことは困難で、無理にとろうとすると口器のみが皮膚の中に残り、化膿してしまうことがある。 |  |
| 生態 | 全国の野山や、都市部では公園や川原などに広く分布し、大型野生ほ乳類(ウシ・イヌなど)に多数寄生している。4月～10月に被害が発生し、特に7月に多くなる傾向がある。草上で新しい宿主に遭遇する機会を待ち、寄生する。 | |

自分の身は自分で守ろう！

野山、畑、草むらなどへ出かけるときは、**長袖、長ズボン**を着用しましょう
※白はマダニの好む色なのでNG



 **防虫スプレー**をしましょう

厚手の靴下をはき、**直接地面に**すわらないようにしましょう



ペットの体にもマダニが付いていないかチェックしましょう

帰宅後は、**すぐに入浴**をして、体にマダニが付いていないかチェックし、**新しい服**に着替えましょう



原因不明の発熱や関節痛などの症状がある場合は医療機関を受診しましょう！

マダニに咬まれたら、**すぐに皮膚科などの医療機関で取り除いてもらいましょう。**(無理に引っ張ると、口器の部分がちぎれて皮膚に残ることがあります)

